

わたしたちの仲間になりませんか？

コロナ禍 医療従事者は、様々な観点から報道されるようになりました。世の中の常識からはかけ離れた業務負担の姿をご覧になられた方も多いでしょう。東京に一極集中した職場や学業環境からの通勤通学ラッシュは日本通年の風物詩とも言えます。現在では感染蔓延を避けるために密集・密接・密閉を避ける対策も打ち出され、仕事や授業のリモート対応も当たり前になってきています。

昨今、コロナ禍によって仕事に対する考え方も変わってきていると思います。仕事に専念しつつも自身のため、家族のための時間の使い方が見直され職場から遠く離れた環境に移住するという動きも増えているようです。

私事当院に勤務するようになったのは平成9年、20数年前になります。大学病院人事で派遣されましたが、それまでは数年で移動し、自分が手術した患者さんの経過は後任者に委ねることを繰り返していました。三浦半島にきてからは長期間フォローアップができており、時には救急患者さんの生命も救ってきました。もちろん悪性疾患の場合は、進行・再発から残念な経過となったことも多々あります。だからこそ時間をかけ患者さんとともに寄り添いながら貢献できたのだと思います。それらの経験が、患者さんのみならず仲間とも力をあわせて行く優しく穏やかな医療をもたらせてくれているのです。

三浦半島は穏やかな気候で、海・山、豊かな農産物・海産物に恵まれ、僅かな時間で東京湾、相模湾、遠くに富士山を眺められる風光明媚な逗子・葉山・鎌倉などとも隣接しています。仕事から離れたときに、心を穏やかにしてくれる環境には本当に恵まれています。

50歳を過ぎて始めたマラソンも、四季の移ろいを感じながらほぼ海を眺めてのコースを走れる環境があったからこそです。高齢者の多い病院ですが、他職種の仲間とともに優しく支えていくことで地域の医療・福祉に貢献しています。もちろん忙しいのは医療従事者として変わりありませんが、ちゃんと自分の時間はつくれます。

いまの職場環境はどうですか？ やりがいを感じてますか？ 仲間と笑顔で仕事ができますか？ ご家族と一緒に食事をしたり笑顔で過ごされていますか？ よろしかったら是非ともご家族で三浦半島にいらしてください。お住まい、学校、託児所など地域の皆さんも必ず力になってくれます。

わたしたち、衣笠病院グループの仲間になりませんか？

いつでもお待ちしております。

衣笠病院 副病院長 岩田 啓吾